

きたnote. 市民ライターレポート



レポートの全文は北上市の都市ブランドサイト「きたかみリズム」をご覧ください。



この記事のライターさん



齊藤 比佐代さん

和賀町横川目で3人の子育てをする市民ライター1年生。北上市を楽しみ尽くせる発信がしたい。

北上にはこんなにもお母さんお子さんに配慮したスキー場があるなんて知らなかった!!大雪だったある日、子どもたちを連れて夏油高原スキー場へ向かいました。

2階のフードコートの扉を開けるなり、子どもたちは私の手を振り払い、巨大なフワフワ遊具に走って行きました。その隣には授乳室兼オムツ交換場所があり、行き届いた配慮にママは感動。食事メニューにはキッズプレートあり、外には入場無料のキッズゲレンデありで、さまざまな体験を親子で楽しめます。

毎日の除雪作業に「雪なんてもうお腹いっぱいよ」と地元の人はいいますが、改めて地元の資源を大切にしたいと、今回の取材や体験を通して思いました。雪やスキー場があるのは当たり前ではない。本州トップクラスを誇る豪雪パウダースノーを堪能し、ママと子どもに優しいスタッフの皆さん・施設を応援していきたいですね。



(上)こんな巨大な遊具で遊べるなんて子どもはテンション上がりますよね (下)ごはんは子どもたちが喜ぶメニューが充実しています

こちら「きたかみE&Beエフエム」です



不登校ひきこもりの親として経験したことや当事者の思いを伝えるため、全国各地で講演する活動も行っています。



いいんべ E&Beエフエム88.8MHz アプリ「FM++」でも聴取できます (おんせブラザぐるーぶ内)

0197-62-8833 e-be@fm888.jp



ホームページ



Facebook



twitter

13年前、次男が不登校になり、その後ひきこもり状態。悩み苦しんだ経験から、自分に



パーソナリティ紹介

後藤 誠子さん

1人じゃないから(第4金曜9時~10時、再放送は第4土曜19時~20時)を担当。聴いているよという声が一番うれしいです。

しかできないことがあると、約4年前から居場所作りなどの活動を始めました。そんな時、いいんべエフエムから「不登校やひきこもりのことを発信する番組を作ってみないか」と声を掛けられました。自身の経験から、生きづらさを持つ人たちに「あなたは1人じゃない、ここに私が居るよ」という思いを伝える番組にしようとタイトルを「1人じゃないから」としました。初めは緊張で思うように話せず、自分がかかりしましたが、続けるうちに少しずつ楽しんで話せるようになり、いつしかゲストを迎えておしゃべりする番組になりました。

モットーは「不登校ひきこもりの話を明るいところで」。この番組を聴いて、生きづらさについて知ってもらいたいです。誰でも1人じゃないから大丈夫!ぜひ聴いてくださいね。

まちの話題

市内の話題を紹介

北上の優しい鬼と遊ぼう！

第23回遊鬼まつり「鬼の訪問」

2/3

北上商工会議所青年部は、鬼すむ町をPRする遊鬼まつりを実施しました。子どもたちに鬼剣舞など地域に根付く鬼の文化を伝えるため、鬼のぬり絵コンテストのほか、市内14カ所の保育園などを鬼の格好で3年ぶりに訪問。園児らと一緒に遊びました。

hoKko内のおやこセンターでは、初めは怖がっていた子どもたちも最後は仲良くハイタッチ。同部交流委員長の八重樫澄恵さんは「子どもたちに喜んでもらえて良かった」と笑顔を見せました。



雪の中でも熱々の炭火焼き肉を堪能 展勝地冬まつり

2/5

展勝地冬まつりは、レストハウス前の駐車場で行われました。展勝地と夏油の連携事業として初開催。夏油いで湯ライン付近の事業者9者を含む11者が参加し、展勝地に夏油の味覚などが並びました。

炭火焼き肉コーナーでは、雪の中でも七輪を囲み、良質な県産の炭火で焼きたかみ牛を堪能する人々にぎわいました。岩田高宏さん(56歳・本通り)は「九州出身なので、このようなイベントで地元の料理をもっと味わいたい」と期待していました。

次世代につながる再開発を 都市再生シンポジウム

1/29

中心市街地の再生を目指す「北上市拠点形成プロジェクト」のシンポジウムは、日本現代詩歌文学館で開催され、参加した関係者ら約140人は市街地再生の理念や目指す姿を共有しました。

パネルディスカッションに登壇した諏訪町一丁目地区まちづくり協議会の千葉貴幸事務局長は「周辺も考えながら市の発展につながる活動をしたい」と話しました。



旧暦の小正月を祝う みずき団子飾り

2/5

みちのく民俗村で、みずき団子飾りが行われました。親子連れを中心に約60人が参加。色とりどりの丸い団子をミズキに取り付け、民家前に飾りました。早瀬杏ちゃん(6歳・暁の星幼稚園)は「かわいくなるようにお団子を伸ばして枝いっぱいにつけた」と満足げ。園内の田んぼでは、一年の五穀豊穡や無病息災を願う雪中田植えとどんど焼きが行われました。



市内産牛が2年連続受賞 江谷農産が最優秀賞

2/7

第33回いわて牛枝肉共助会(1月24日、東京都港区)で最優秀賞に輝いた江谷農産(上江釣子、高橋信一代表取締役)の高橋勝取締役からは本庁舎を訪れ、高橋市長に受賞を報告しました。市内産としては、昨年の千葉洋喜さん(和賀町藤根)に続く最高賞です。

同社は藤沢の牛舎で繁殖牛など約140頭を飼育。後進を育成しながら頭数の増を目指しています。

